

学校名	基山町立基山小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	・基山町小中3校で「小中一貫教育」を推進するために9部会を設置し、研究や実践をしてきた。3校共通の目標である「きたえ やりぬき まなびあう」の達成のために、「すみそあじ」など共通の取組に力を入れることができた。 ・9部会については、定例で部会を行った。各部会ごとに参集型やリモートでの会議を重ね、各専門部の機能強化と専門性を高めていった。 ・学年主任や各主任を核とした組織的な指導体制をさらに強化し、ミドルリーダーの育成と若手支援を継続して行い、実践的な研究を深めていく。 ・特別支援教育では、職員全体で研修を積み、個に応じた支援の在り方について意識を高めることができた。今後も高い専門性をもって、指導や支援にあたることができるようにしていきたい。 ・一人一台端末の効果的な活用と職員のスキルアップを図ることができた。今後は、普段の授業だけでなく、欠席者へのリモート授業等ができるよう教員のスキルを更に高め、タブレット活用の幅を広げていきたい。
--------------------------	--

2 学校教育目標	きたえ やりぬき まなびあう 【 夢いっぱい基山っ子！ 笑顔であいさつ・笑顔でありがとう 】
----------	--

3 本年度の重点目標	・基山中校区の中小一貫教育では、引き続き9つの専門部を校内組織と更に関連付ける。これにより、これまでの取組の精査を図るとともに、各専門部の機能強化と専門性をさらに高めていく。 ・特別支援教育において、個に応じた指導や支援ができるよう、指導者及び特別支援学級補助員を含む全職員が児童理解に努め、スキルアップしていく。 ・一人一台端末の効果的な活用において、今後は持ち帰りをしたの活用や個に応じた学びにおける活用について取り組むことで、児童の主体的な学びにつなげ学力向上を図る。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・児童が主体的に学ぶ授業の実践	○アンケートにおいて、ふりかえりを通じて、自分に付いた力を実感したと回答した児童80%以上。また対話活動のよさを 実感したと回答した児童80%以上。	B	・単元において、めあてを共有し、自分の学習のふりかえりを実践する。 ・対話活動を取り入れることで、よりよく課題を解決できるようにする。	A	・「学習して、力は伸びているか」に肯定的な回答(児童)は95.5% ・「めあてを共有し、ふりかえりを行っているか」に肯定的な回答(職員)は92.7% ・校内研究においてふりかえりや対話活動を充実させていく。 ・全国学力学習状況調査の結果から授業改善の研修を実施	A	・ふりかえりを通じて、自分に付いた力を実感したと回答した児童は、88%で目標を達成した。 ・全ての単元において、めあてを共有し、ふりかえりを行っている職員が97%あり、ふりかえりについて周知徹底できた。 ・対話活動のよさを実感したと回答した児童91%で目標を達成した。 ・校内研究において対話活動を充実させたことで、他の児童との対話を通してよりよく課題解決をする児童が増えた。	A	・全国及び佐賀県学力・学習状況調査の結果、県の平均を上回るか、同等の結果である。 ・「テストが終わると、それで学習が終わる」とせずに、間違ったところをやり直す習慣を小学校の頃から付けてほしい。やり直したり、復習したりすることで、また力を付けることになると思う。	・学力向上コーディネーター ・研究主任 ・小中一貫教育担当
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒85%以上	A	・全ての学級において「ふれあい道徳」を実施する。 ・「一人一人がよさを発揮し、互いのよさを認め合える授業や学級経営を行う」。 ・集会や縦割り活動等で自己肯定感や自己有用感の高揚を図る。	A	・「お子さんは学校生活を通して思いやりや倫理観など道徳的な心が育っているか」に肯定的な回答(保護者)は91.9% ・「道徳の学習で学んだことをいかしたい」に肯定的な回答(児童)は94.8% ・「児童が、他者への思いやりを感じ深める道徳教育を行っているか」に肯定的な回答(職員)は97.5%、指導を継続予定 ・全クラスでふれあい道徳の授業を実施	A	・「お子さんは学校生活を通して、思いやりや倫理観など道徳的な心が育っていると多いです」に肯定的な回答をした保護者は中間時と同等であった。 ・「児童が、他者への思いやりを感じ、深める道徳教育を行っています」に肯定的な回答をした職員は中間時と同等であった。 ・ジェンダーやLGBTQの問題、外国籍の児童の増加など、道徳教育や人権教育でも取り扱っていく必要がある。	A	・基山町は、県内でも外国籍の方が多く住んでいる町である。そのために、今後も外国籍の児童が増えていることが考えられる。 ・今後、外国籍の児童が増えていった場合、会話は大丈夫なのか。コミュニケーションの問題や文化の問題などの対応が必要になってくるだろう。また、両親ともに全く日本語が分からない児童も出てくることも考えて対策すべきである。	・道徳担当
	●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの未然防止、相談活動の充実等組織対応ができていると回答した教員85%以上	B	・Hrb-OUの活用と、いじめに関するアンケートを年間2回実施することで、児童の実態を把握し、指導に生かす。 ・定期的に、児童の情報共有の場を設ける。 ・SC、SSWの活用、保護者、地域、専門機関との連携強化を図り、生徒指導や教育相談体制の整備を行う。	A	・「学校はいじめの未然防止や早期発見のために組織的に対応しているか」に肯定的な回答(保護者)は85% ・「学校全体として、いじめの未然防止や早期発見のために組織的な対応ができていくか」に肯定的な回答(職員)は95.2% ・「引き続きSC、SSW等との連携を図りながら、いじめの未然防止及び教育相談の充実に取り組みを実施予定	A	・いじめアンケートを2回実施し、いじめの早期発見に努めることができた。 ・「学校全体として、いじめの未然防止や早期発見のために組織的な対応ができていくか」の間に肯定的な回答をした保護者及び職員は中間時と同等であった。 ・SC、SSWとの連携を図りながら、学校全体でいじめの未然防止、教育相談の充実に努めることができた。	A	・いじめはあっているが、大規模校でありながら大きないじめに繋がっていないのは、学校が早期対応を行っているからだと考ええる。 ・別室登校や町の支援センターの利用など、外部とのつながりがスムーズにできている。
●健康・体づくり	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	B	・「笑顔であいさつ・笑顔でありがとうが飛び交う、温かく居心地のよい学校を共通の目標に掲げる。」 ・「ふるさと基山の歴史」等、地域の教育資源や人材を活用した実践に取り組む。 ・小中の系統性をもたせた「きやま学」を実践する。 ・キャリアパスポートの活用を推進する。	A	・「先生達はあなたのよいところやがんばりをほめてくれるか」に肯定的な回答(児童)は92.7% ・「将来の夢や目標をもっているか」に肯定的な回答(児童)は86.5% ・「児童のよさや伸びを認められているか」に肯定的な回答(職員)は100% ・小中の系統性のある「きやま学」や「キャリアパスポート」の取組	A	・「児童のよさや伸びを認められているか」の間に肯定的な回答をした職員は中間時と同じ100%であった。 ・「地域の資源や人材を活用した学習に取り組んでいるか」に肯定的な回答をした職員は79.4%であった。今後もさらに地域の教育資源や人材を活用していく必要がある。 ・学年の終わりに、児童の夢や希望につながるような「キャリアパスポート」に取り組む。	A	・「地域の資源や人材を活用した学習」で、高学年は、家庭科などたくさんサポートしてもらっているので今後は、地域学習が低学年でもできればと考える。例えば、「町たんけん」などで地域とのつながりをもつことができるのではないかなと思う。	・学校行事担当(教頭、主幹、教務、各学年) ・「きやま学」担当
	④「安全に関する資質・能力の育成」	④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。 児童の安全に関するアンケートにおいて、安全に対する意識の向上が図れたと回答した児童80%以上	A	・交通安全教室や地区児童会、登校班長会等を通して、児童の安全意識を高める。 ・地域との連携をより積極的に行う。 ・「防災・安全」部会を中心に、小中一貫の取組を計画・実践する。	A	・「交通安全に気を付けて生活をしているか」に肯定的な回答(児童)は98.1% ・「児童の安全意識を高める指導を行っているか」に肯定的な回答(職員)は92.7% ・引き続き地域との連携を図りながら児童の安全意識を高め、交通事故の0を目指す	A	・今年度、児童の交通事故は0件で、地域との連携を図りながら安全に過ごすことができた。 ・「交通安全に気を付けて生活をしているか」の間に肯定的な回答した児童は93.5%であった。 ・「児童の安全意識を高める指導を行っているか」の間に肯定的な回答をした職員は97%で伸びている。	A	・「児童の安全意識を高める指導」については、今後も100%を目指し、全職員で取り組んでほしい。 ・交通安全に関しては、地区によっては交通量の多い道路がある。そのために、車道からなるべく離れた歩道を歩くなどの指導をしてほしい。 ・朝の登校によりが、下校や放課後は気が緩みがちなので、これからも気を付けるように指導を続けてほしい。	・安全指導担当
	○食育教育の充実	○年間の給食残菜率は5%以下 ○給食に関するアンケートで、給食が楽しいと回答した児童90%以上	B	・栄養教諭と食育教育担当職員が中心となり、学級担任との連携した食育指導を展開する。	A	・4月から10月までの給食残菜率の平均は6.1% ・引き続き栄養教諭と担任が連携し、給食時や授業において食育指導を実施予定	A	・今年度の給食残菜率は5.7%、11月からは平均5%であった。(供給量は少しずつ増えている。) ・「給食が楽しい」と回答した児童は89%であった。 ・食育の授業の実践と給食委員による活動を計画的に実施できた。	A	・物価が高騰し給食費は大丈夫なのか心配である。 ・「給食が楽しい」というのは、とてもよいことである。 ・「基山の給食はおいしい」とよく聞く。栄養士や給食センターのご尽力だと思う。	・栄養教諭 ・食育指導担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	B	・働き方改革に関する研修を実施し、教員の意識の向上を図る。 ・業務のデジタル化に取り組み、業務効率化を推進する。 ・金曜日を定時退勤推進日として、17:30施設、その他勤務日においても18:30上限とする。 ・衛生委員会を通して勤務実態の共有を図り、業務改善意識を高める。	A	・「学校は校時表の見直しや学校行事の精選を踏まえた働き方改革を行っているか」に肯定的な回答(職員)は97.6% ・労働安全衛生委員会を開催し、職場の環境等改善点について意見収集を実施 ・時間外勤務時間平均は減少。18:30退勤の上限遵守については取り組みを継続実施	A	・「学校は校時表の見直しや学校行事の精選を踏まえた働き方改革を行っているか」に肯定的な回答をした職員は90.9%。今年度新たな取り組みはないが、昨年度の改革が定着している。 ・労働安全衛生委員会を定期的に開催し、職場の環境等改善点について、医師の意見をもとに改善することができた。 ・時間外勤務時間平均は徐々に減少。18:30退勤の時間外上限遵守については取り組みを継続実施している。 ・業務のシステム化など業務のデジタル化は、進んでいる。	A	・会社関係はだいぶ前から導入していたが、学校も出勤のカードリーダー使用や休暇に際してもシステムになり業務改善につながり、よかった。	・教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	A	・「研修等を通して、特別支援教育に対する専門性が向上したか」に肯定的な回答(職員)は92.7% ・引き続き、特別支援学級における研究授業や自立活動の公開授業など職員の研修機会を設定予定	A	・「研修を通して、特別支援教育に対する専門性が向上したか」の間に肯定的な回答をした職員は94.1%で、個に応じた支援の在り方について意識を高めた職員が多い。 ・校内で、特別支援学級における研究授業を実施し、職員の研修機会を設けた。 ・定期的に支援員との打ち合わせの時間を設け、連携を深めた。	A	・職員が常に研修を受けていると聞き、感心している。 ・特別支援学級が年々増加しているようで、教室不足、教員不足が心配である。	・特別支援コーディネーター		
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○基本的な生活習慣の定着	○あいさつ、返事、廊下歩行、はきもの揃えの定着 ○「早寝・早起き・朝ご飯」の徹底	○基山小中一貫の取組「す・み・そ・あ・じ」を徹底し、毎学期繰り返して取り組むことで指導の徹底を図る。 ○十分な睡眠がとれていると回答した児童80%以上	B	・1月毎の「生活目標」を「す・み・そ・あ・じ」に焦点化し、毎学期繰り返して取り組むことで指導の徹底を図る。 ・学校だけでなく全校集会等で児童の頑張りを肯定的に評価し、定着を促す。 ・「早寝・早起き・朝ご飯」の周知徹底を図る。	A	・「早寝・早起き・朝ご飯」に肯定的な回答(保護者)は、早寝73.2%・早起き83.8%・朝食97.3% ・「す・み・そ・あ・じ」の約束を守っているか」に肯定的な回答(児童)は94.8% ・「早く寝ているか」に肯定的な回答(児童)は75.1%。	B	・登校の様子を見ると全体的に挨拶ができているとは言えない状態である。アンケートで挨拶ができている割合は、83%と1学期からマイナス、2学期から変わらない結果だった。3学期から校内でも挨拶をするように取り組んだことで、少しずつではあるが、自分から挨拶をする児童が増えてきたように思われる。また、家庭への働きかけも必要だと感じた。	B	・「あいさつがしっかりとできるかできないかは、大人や家庭の力が大きい。 ・学年によって差があるようだ。 ・「す・み・そ・あ・じ」に対しては、どうしたらよいのか、自分が意識して高まるように、「自分のめあて」を考えたらいいのではないかな。	・生徒指導担当 ・養護教諭
○GIGAスクール構想におけるICT活用	○一人一台端末の有効活用	○一人一台端末の活用が十分にできたと回答した教員80%以上 ○端末を用いた学習は主体的な学びにつながったと回答した児童80%以上	B	・情報担当教員を中心とした教員のスキルアップのための研修会を実施する。 ・一人一台端末の活用に関する情報交換を実施する。	A	・「タブレットを使った学習ではたくさんのお話を学ぶことができたか」に肯定的な回答(児童)は96.1% ・「タブレット端末を活用した授業づくりの研修を踏み、端末の活用に取り組んでいるか」に肯定的な回答(職員)は68.3%、タブレット利活用については、研修等で職員のスキルアップを予定。	A	・「タブレットを使った学習に取り組んでいるか」の間に肯定的な回答をした保護者は、81.8%であった。 ・「タブレット端末を活用した授業づくりの研修を積み、端末の活用に取り組んでいるか」の間に肯定的な回答をした職員は、84.9%で、中間時より伸びており、タブレット端末の利活用が進んでいる。	A	・タブレット活用への努力がうかがえる。毎日持ち帰りになったこともあり、一層利活用の研修を深めてほしい。 ・高学年になると、タブレットを使いプログラミングなどでもできるようになり、驚いている。毎日持ち帰りの効果が出ているのではと思う。	・情報教育担当

5 総合評価・ 次年度への展望	・特別支援教育について、職員全員で研鑽を積み、個に応じた支援の在り方について意識を高めることができた。今後も、高い専門性をもって指導・支援にあたることができるように研修の機会を作り、研鑽を積んでいきたい。 ・小中一貫教育の充実を図るため、「すみそあじ」を月目標に取り入れ、年間取り組んできた。児童の意識づけはできているが、家庭にも協力をお願いするなど、地域・家庭・学校が連携し、より一層定着を図りたい。 ・一人一台端末の効果的な活用と職員のスキルアップを図ることができた。今後は、個に応じた学びにおける活用についても取り組んでいきたい。	
----------------------------	--	--